

## 朝鮮機械製作所社宅の部屋番号

仁川にいた祖母が徳島へ送った手紙の中に社宅の部屋番号を書いたものが見つかった。差出住所には「仁川府万石町八 機械会社宅十六号」とある。この住所に社宅があったのかは確認できていないが、手紙から松坂町の借家から引っ越した直後に書いたことがわかる。ということは花水町に住んでいたところと重なる。つまりこの万石町8番地というのは花水町8番地のことではないかと推測した。花水町8番地は朝鮮機械製作所があった万石町6番地と隣接していることから、そこを万石町と勘違いすることは大いに考えられる。

仁川で最初に住んだ松坂町からの手紙には仁川の住宅難は相当なものであることと朝鮮機械製作所が社宅を建設中であることが書かれていた。社宅からの手紙には昭和13年12月20日に引っ越したとあった。現在、花水洞の社宅がある場所は埋立地ができたため海から離れているが、当時そこは海岸沿いで、海に近いため浜風が強いことを心配していた。興味があるのは社宅には風呂がなかったこと。社宅専用の風呂が7時に沸くとあった。朝鮮機械製作所旧社宅には仁川を訪問した際にはよく立ち寄っている。残念ながら当時そこにあった社宅全部が現存しているのではなく、16号という部屋がどこだったのかはわからない。この部屋番号のことは仁川にある日本時代の社宅に詳しい李成珍先生にはすでに伝えてある。今も残っているのなら覗いてみたいものである。

